

[展示会報告 TELECOM2006] 1. ITU TELECOM WORLD 2006の概要

● ITU TELECOM WORLD 2006の開催概要

国際連合の一機関である国際電気通信連合 (International Telecommunication Union : ITU) の主催で開かれる、ITU TELECOM WORLDはグローバルな電気通信関連の展示会およびフォーラムです。1971年に第1回が開催され、今回で第10回になります。

従来4年ごとに開催されていましたが、今回から3年ごとに変更され、また今回は中国の政府、事業者、ベンダーの強力な働きかけによりジュネーブを離れ、ITU TELECOM WORLD 2006として初めてアジアでの開催が実現しました。

ITU TELECOM WORLD 2006は2006年12月3日（日）に行われたオープニングセレモニーを皮切りに、2006年12月4日(月)から8日(金)までの5日間にわたって香港のエアポートに隣接した「Asia World-EXPO」というイベント会場で開催されました。展示会場を写真1に示します。

主催者発表によると66,000平方メートルの会場に37ヵ国から695社が出展し、141ヵ国、約62,000人の来場者がありました。

● ITU TELECOM WORLD 2006の特徴

第1の特徴としては、前回出展しなかった欧米の有力ベンダーが今回は出展し、また香港での開催ということもあり、中国・韓国勢は力の入った展示となっていましたことです。

また、従来は世界各国の企業などが技術開発の成果を競う「通信のオリンピック」といわれてきましたが、前回より今日・明日の製品あるいはソリューション訴求が中心となり、今回も全体的に技術（性能・機能）より製品スタイルリングや使い勝手重視等、製品の完成度をアピールする内容が多く見られたのが第2の特徴です。

第3番目には元々は固定系の通信が中心だったこの展示会ですが、世界的なモバイル化の進展からモバイル系の展示が増加し、携帯端末、HSPA (High Speed Packet Access)、WiMAX (Worldwide Interoperability for Microwave Access)、Indoor Node-Bなどの展示が目立った点です。特にWiMAXについては有力ベンダーがこぞって展示していました。ブロードバンド系についてはIPTV、映像サービスの表現が目立ちました。

また、全世界の通信事業者の幹部が集まる展示会であり、商談重視の傾向が高まり、NECも含め欧米勢を中心に特定顧客にのみ見せるクローズド展示や商談ラウンジ重視の出展が多かったのも特徴といえるでしょう。



写真1 展示会場（正面：写真上と西口：写真下）

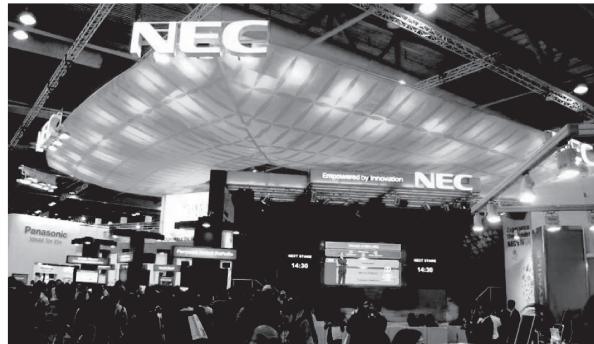


写真2 NECスタンド



写真3 受付およびクローズド展示エリア入り口

NECスタンド、NECの展示概要は次のページ以降にご紹介します（写真2、写真3）

[展示会報告 TELECOM2006] 2. NECの出展概要およびテーマステージ

● 展示の構成

NECとして初めての本格的なNGN(Next Generation Network)のプレゼンテーションの場として、通信事業者、サービスプロバイダ、放送事業者などのお客様に対し、NECのNGNコンセプト、ソリューション、製品、先端技術をアピールすることとしました。

この目的に沿って主に一般来場者やプレスに向けてのテーマステージおよびオープン展示と、プリンシバルなお客様に向けてのクローズド展示に分けて展示を行いました。

テーマステージではNECのNGNを一般来場者やプレスに向けて分かりやすく訴える内容とし、NECの特徴的な製品、技術を公開するオープン展示とともに賑やかなNGN広場を構成することにしました。

一方クローズド展示ではプリンシバルなお客様に対し、より落ち着いた環境でご説明し、意見交換、商談ができる構成としました。

また、同時期に東京で開催されたNEC、日経BP社主催の、ユビキタス時代のソリューション展示会であるiEXPO会場へ向けてTELECOM WORLD 2006の会場の様子を中継し、東京のお客様にもTELECOM WORLD 2006の雰囲気を味わっていただくことにしました。

● スタンドデザインとレイアウト

NECのスタンドデザインとしてはNECカラーのブルーを基調とし、単独出展としては最大級の面積を確保しました。2階建てのスタンドの1階部分には展示の構成に沿ってテーマステージ、オープン展示をメイン通路側に配し、クローズド展示は賑わいとは切り離された静かな空間として受付奥に配しました。また落ち着いた商談スペースとしてミーティングルーム、ラウンジを2階に確保しました（前ページ写真2、写真3をご参照）。

● テーマステージ

テーマステージでは“Experience the Wonder of NEC's NGN”をテーマに、「NGNがもたらす新しいコミュニティの広がり」と「エンタテインメントとコミュニティによる感動の共有」を司会者と役者3名による近未来のドラマ仕立てでストーリー展開し、NGNのもたらす生活スタイルをその裏で支えるNECのNGNの技術との関連を含めて表現しました。また、中国伝統楽器の二胡によるライブ演奏も加え、NECのNGNがもたらすベネフィットを楽しく分かりやすく説明しました（写真4）。

1時間ごとに実施したステージは毎回通路にも人があふれるほどの盛況ぶりでした。他社のステージはプロダクト



写真4 テーマステージとその来場者

重視の表現形式が多いなか、NECはNGNのもたらす生活スタイルを打ち出すことで一般来場者のほか、マスコミからも大いに注目を集めました。

このステージショーはNECのホームページでも動画で御覧いただけます。以下のURLのイベントレポートコーナーに記載されています。

日本語：<http://www.nec.co.jp/online-tv>

英語：<http://www.nec.com/online-tv>

NECのテーマステージを御覧になった方へのアンケート結果を図に示します。約94%の方が良かったと回答しています。また、約72%の方にNECのNGNを理解していただき、約67%の方がNECの印象が良くなったと回答をいただき、テーマステージで訴えたかったことが皆様に伝わったことが分かりります。

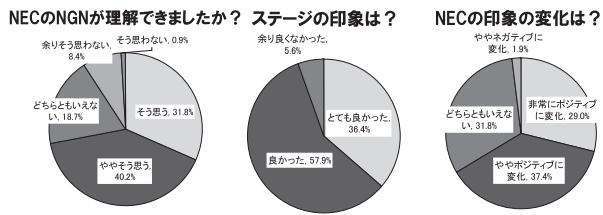


図 テーマステージのアンケート結果

展示会報告 TELECOM2006] 3.NECのオープン展示およびクローズド展示

● オープン展示

一般来場者向けのオープン展示としてNECのNGNのポイント展示を最新携帯端末、What's Next?、中国・アジア向けソリューション、IT訴求、R&Dの5つのカテゴリーについて計11コーナーでプレゼンテーションおよびデモを実施しました。

オープン展示について多くの来場者に観ていただきました。PaPeRo、3D顔認証を中心に入だかりができ、特に優れた音声認識力とかわいい動作のパーソナルロボットPaPeRoについては人気が高く、マスコミにも多く取り上げられました（写真5、写真6）。最新携帯端末、What's Next?にも高い関心が得られ、NECのコア技術のプレゼンスを伝えることができました。またWhat's Next?コーナーはテーマステージで表現したNGNのもたらす生活スタイルを支えるNECのNGN技術について映像により解説したプレゼンであり、NECのNGNに対して多くの方に興味を持っていたといったことが分かります。

● クローズド展示

通信事業者や政府関係者等、プリンシパルなお客様に向けてそれぞれのニーズに従って説明できるよう、NGN関連技術、製品、R&Dを4つのゾーンに分けて一同に展示しました。

ConvergenceゾーンではNGN全体コンセプトおよび固定・移動体共通の展示として、IMS (IP Multimedia Subsystems) ベースのアプリケーション、SIP-SDP (Session Initiation Protocol - Service Delivery Platform)、ワイヤレス/オプティカルトランスフォーム製品群、企業向けソリューションなど幅広く展示しました。

Mobile Networkゾーンでは移動体系の展示として、IMS プラットフォームでのサービス連携や商用網を用いたHSDPA (High Speed Downlink Packet Access) のデモ、付加価値アプリケーション、IMS/MMD (MultiMedia Domain)などを展示しました。

Fixed Networkゾーンでは固定系の展示として、トリプルプレイ、高精細動画のVOD (Video On Demand) など、高信頼性・高品質なブロードバンドサービスを提供する技術を中心いて展示しました。

Application ServicesゾーンではNGNのアプリケーションサービスを実現するIT基盤を展示しました。

このようなゾーン構成とすることで、たとえば移動体系事業者の顧客向けにはConvergenceゾーンとMobile Networkゾーンの説明等、ポイントを絞った説明を行いました。クローズド展示エリアの全景を写真7に示します。



写真5 オープン展示の様子



写真6 大人気のPaPeRo

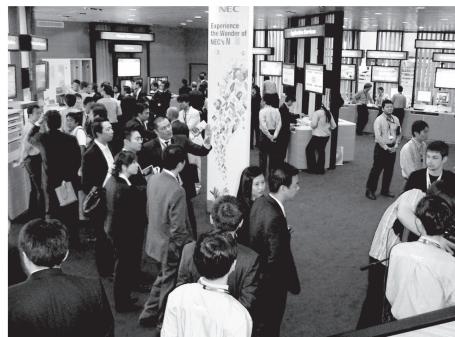


写真7 クローズド展示全景

クローズド展示ではIMSアプリケーションからトランスポート製品まで幅広く関心を寄せられ、IMSアプリケーションであるConvergenceゾーンのグループコミュニケーションなど一部はマスコミにも取り上げられました。

[展示会報告 TELECOM2006] 4. NECスタンドの映像のiEXPOへの中継

● NECスタンドの映像のiEXPOへの中継

同時期に東京で開催されたiEXPOとの連携として、TELECOM WORLD 2006のNECスタンドの模様を、録画映像およびファインストリーム（NEC製H.264コーデック製品）を用いたライブ中継によりiEXPOの会場へ向けて放映しました。iEXPO会場ではNGNコーナーで放映し、来場のお客様から好評を得ることができました。iEXPO会場でのライブ中継の様子を写真8に示します。



写真8 iEXPO会場でテーマステージをライブ放映

● おわりに

NECはこの展示会を通じ、「NECのNGNコンセプト、ソリューション、製品、先端技術のアピール」という当初の目的を果たすことができました。

これはひとえに香港でのTELECOM WORLD 2006のNECブースへお越しいただきました多くの方々、そして東京でのiEXPO会場での中継をご覧くださいました多くのお客様のお蔭でありまして、改めまして深く感謝申し上げます。

NECはこの成果をもとにさらにNGNのソリューション・製品を拡充し、お客様の新しいビジネス創造を全社一丸となり支援・提供していく所存です。

NEC ArgentinaがITU TELECOM WORLD 2006に参加（1）

ITU TELECOM WORLD 2006が中国・香港で一週間開催され、12月8日に閉幕しました（前述の「展示会報告」記事もご参照ください）。このイベントにはおよそ62,000人が詰めかけ、Alcatel-Lucent Technologies、AT&T、China Mobile、China Netcom、China Telecommunications、China Unicom、Cisco Systems、Ericsson、富士通、日立、HP、Huawei、IBM、Intel、LG Electronics、Microsoft、Motorola、NEC、Nortel、沖電気工業、Orange、Qualcomm、Samsung、Siemens、SK telecom、東芝、Verizon、ZTEなど、業界のトップ企業の展示会場やフォーラムは満員となるなど盛況を博しました。

イベント全体の根幹を成す中心テーマは、情報化社会の拡張と、ICT（情報通信技術）へのアクセスの推進でした。開催中、ICTの到達度を拡大するために建設的な討論が行われ、ポリシーの検証、最善の実践事例の紹介、技術のデモンストレーションなども行われました。

ITU Telecom Worldのフォーラムにラテンアメリカ人はわずか二人参加し、NEC Argentinaの取締役社長であるCarlos Martinangeli氏（写真1）は、そのうちの一人でした。フォーラムの中において最もバランスのとれていたパネルの1つである「Reinventing the government for the digital world（デジタル世界のための政府を再発明する）」に参加したMartinangeli氏は、スピーチの冒頭で、技術についてではなく、e-government（電子政府）に対するNECのコンセプトについて語りたいと伝えました。

Martinangeli氏は、政府と同様に民間企業もデジタル格差の低減に役立つプランを開発すべきである現実を強調し、「e-governmentは公的機関や、内部および外部のコミュニケーションの効率性を向上するとともに、概して公務員および役所の信頼性と透明性の指数がきわめて低いラテンアメリカにおいて政府の評判を高める方法もある」と述べました。また、NECのe-governmentへの認識については、その第一は政府、第二は政府の電気通信の構造基盤という多層にわたる計画であるということを強調しました。このレイヤにはさらに、自治体のプライベート・ネットワークを行き交う、セキュリティ基準を満たした教育、保健、行政、地方自治体へのアクセス、ビジネス、そして、データセンターにおける統合データベースなど、統合モデルといえば分かりやすいアプリケーションという局面も存在します。

しかし、もっとも重要なポイントとなるのはサービスという第三のレイヤです。e-governmentのプロジェクトは導入の時点で完結するものではなく、アプリケーションを使用する人員のトレーニング、アプリケーションの進捗管

理、リーダーシップの推進、パラダイムの転換などを実行する必要があります。Martinangeli氏は、「たとえインフラとアプリケーションが優秀であったとしても、ユーザが訓練されていなければ、開始する前から不利な状況となってしまい、結果的に、誰もe-governmentのアプリケーションを使用しないだろう」と述べました。

Martinangeli氏にとって最重要課題は教育であり、「ラテンアメリカの現状は教育の欠如に負う部分がある。だからこそ、教育、eラーニング、テクノロジーそしてコンピュータこそがなおさら重要となる」と強調しました。同氏は、代替案を評価し、政府に対して提言を行える技術者を政府が雇用すべきであると考えています。しかし、ラテンアメリカにおいては、これらの人材は稀であるため、NECにとっては、実際の導入に当たり、ソリューションを活用しトレーニングし、生産性向上に対する民間企業の取り組みや公的機関における専門的能力の開発を推進することが重要です。Martinangeli氏は、政府と民間企業が共同でアイデアを現実化すべきであると強調し、「電気通信事業社の責務は、この香港において壮大な展示会を行うだけではなく、国民の生活レベルを向上させるためにテクノロジーを活用する方法を考えるべきである」と提言しました。

（次のページへつづく）



写真1 NEC Argentina取締役社長Carlos Martinangeli氏

NEC ArgentinaがITU TELECOM WORLD 2006に参加（2）

（前のページよりつづく）

このパネルには、Martinangeli氏に加え、カナダのCommunications Research Center (CRC) の社長であるVeena Rawat氏、シンガポールのInfocomm Development Authority (IDA) の電気通信部門の最高責任者であるKeng Thai Leong氏、エジプトのNational Telecom Regulatory Authority (NTRA) の理事長であるAmr Badawi氏、中国・香港のHKSARGの政府最高情報責任者であるHoward Dickson氏などが参加しました。

カナダ代表のVeena Rawat氏は、e-governmentを構築するためのブロードバンドアクセスの重要性を強調しました。また、シンガポールのKeng Thai Leong氏は、シンガポール政府を代表して、1980年代以来の包括的政策であるテクノロジーの重要性を説明しました。この10年間、シンガポールはブロードバンドの構築に焦点を合わせており、現在では30もの行政機関がe-governmentを利用しています。また、オペレータのための公共の場でのインターネットへの無料アクセスを推進するいくつかの先駆的設備もあり、サービスプロバイダに対しても、他のビジネスに対する補填と同様に無料アクセスが利益をもたらすことを理解させるプロジェクトも実施しています。

一方、エジプトのAmr Badawi氏は、同国の最初の課題は、e-governmentの前にインターネットへのアクセスを推進することであると説明しました。これについては、現在のTelecom Egyptとの収益分配のモデルから始まり、いくつかの課題に直面したとのことでした。その後、同氏は、政府が行政改革を行うためのソリューションを導入するために現在分析を行っている分野を説明しました。さらに、香港のHoward Dickson氏は、今日においてさえもe-governmentの進行は保管された書類上で留まっていると強調し、彼が「プレ・サイバー・パラダイム」と呼んでいるこの事象を再考するようにとの提言を行いました（写真2：NECの展示場を訪問したITU役員、ITU事務総長Hamadoun Touré氏、ITU TELECOMエグゼクティブ・マネージャーFernando Lagrada氏、ITU事務局次長Roberto Blois氏）。

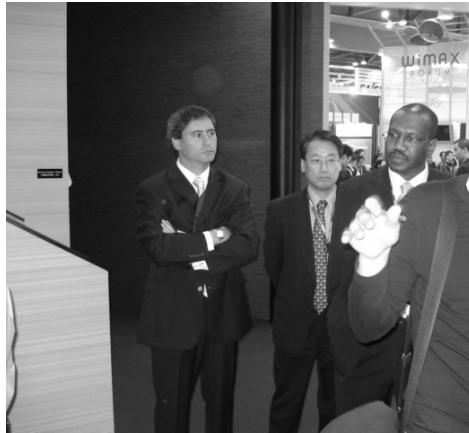


写真2 NECの展示場を訪問したITU役員